

乳房の検査を受けるあなたへ

# 乳房の画像検査

監修

昭和大学病院 プレストセンター長/乳腺外科教授  
聖路加国際病院 放射線科医長

中村 清吾 先生  
角田 博子 先生



### **早期発見のために、自己検診や検診施設での「乳がん検診」の活用を！ 異常（しこりなど）を見つけた人は、「乳腺専門医療機関」で精密検査を！**

乳がん検診では、早期発見することを目的として、乳房に異常（しこりなど）がないかを確認する検査をしています。一方、このような検診で何かしら異常が見つかったり、乳房の異常を自覚している人には、乳腺外科をはじめとする乳腺外来などの専門病院への受診が勧められます。

専門施設では、視触診、マンモグラフィ（X線検査）、超音波（エコー）検査など、まず、身体に負担のほとんどかからない検査を行い、慎重に判断していきます。乳がん検診で見つかった異常でも、良性であることが少なくないという報告がありますので、できるだけ早く、適切な検査・診察を受け、あなたの不安を取り除きましょう。

### **画像検査の進歩が、乳がんや乳腺症などの確定診断と 治療方針決定に貢献しています。**

乳腺専門医が、きめ細かで厳密な診察と治療を行うためには、マンモグラフィなどを含む画像検査を適切に受ける必要があります。近年、これら画像検査は、早期発見や診断だけでなく、治療計画の決定、治療効果判定、術後の乳房の形をどのくらい整えられるかの予測など、治療の多くの場面でも欠かすことのできない手段となっています。

本冊子では、検査の主な流れを紹介しながら、乳房の「画像検査」の特徴とその役割を解説します。これから受ける検査の種類と順序、そして、その検査にどのような意味があるのかを知り、より良い診察と治療にお役立てください。さらに、不安や疑問がある場合は、主治医や病院スタッフに気軽にお尋ねください。

# 乳房検査の流れ

Q.

乳房にしこり、違和感、乳首からの分泌などがありますか？

ある

ない

乳がん検診

- 視触診
  - マンモグラフィ
- など

異常あり

異常なし

確定診断のための検査

- 問診
- 視触診
- マンモグラフィ 《画像検査》 →P.3
- 超音波（エコー）検査 《画像検査》 →P.4
- 細胞診（穿刺吸引細胞診、乳頭分泌物細胞診）
- 組織診（針生検、吸引式組織生検）

悪性（がん）

良性

異常なし

治療法を選ぶための検査

- MRI検査 《画像検査》 →P.5
- CT検査 《画像検査》 →P.6

経過観察

病院での精密検査

補足

必ずしも上記の検査の分類があなたに当てはまるわけではありません。乳がんのタイプはさまざまあり、医師がそれらの特徴にあわせて検査法を選択します。

## マンモグラフィ

検査にかかる時間 10～15分程度

マンモグラフィは、乳房専用のレントゲン撮影です。早くて簡単な検査で、乳がん検診の視触診（医師が見たり触ったりする検査）では見つけにくい小さなしこりを発見することができるため、乳がんの早期発見に重要な役割を果たしています。石灰化（小さな砂粒のような影）をとらえるにも良い検査です。しかし、乳腺（乳汁を分泌する腺）の発達した若い女性では、乳腺と病変の区別がはっきりしないことがあります。

### 検査の受け方

乳房を透明な板で挟み、斜め方向および上下方向から撮影します。乳房を圧迫して、薄く均等に広げることにより重なりを少なくし、少ない放射線線量で鮮明にみることができます。



### 検査画像例

乳房の乳首の高さ（矢印）に腫瘍（塊をなしている部分）が描き出されています。



## 超音波（エコー）検査

検査にかかる時間 10～15分程度

超音波検査は、乳房の内部に向け超音波を当て、その反射波を読み取り、映像化する検査です。局所的に乳房内の状態（液状や固形状など）を見分けることができ、大変有用です。視触診で疑わしいものを発見した場合や、マンモグラフィで判断できない乳腺の発達した若い方の乳房でも病変をとらえることもできる利点があります。ただし、石灰化をとらえるにはどちらかというとな向きです。また、この検査で使用される超音波は人体に影響しないので**妊娠している方の検査も可能**です。

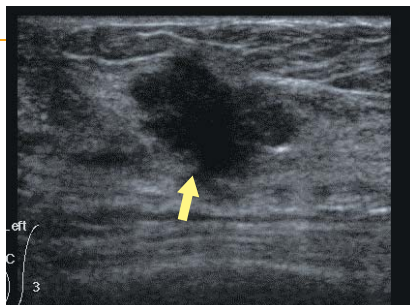
### 検査の受け方

あおむけに寝て、乳房にジェルを塗り、プローブという装置を皮膚の上で移動させながら画像を写し出します。



### 検査画像例

矢印部分に見える不整形の低エコー（黒く写る部分）の腫瘍が、乳がんです。



## MRI検査

検査にかかる時間 30～40分程度

MRI（磁気共鳴装置）検査は、体の中の水素原子が磁気に反応する原理を利用して体の断面図を作り、乳房内の病変をより明確に、あらゆる角度から見ることができる検査です。マンモグラフィや超音波検査で見つかった腫瘍について、さらに詳細な情報を得るために造影剤を使って行います。MRI検査では、乳房内の病変の**拡がり（しこりの大きさや範囲）**をより鮮明に映し出すことができ、**手術計画（乳房の切除範囲）**を決定することができます。MRI検査は強力な磁気を利用するので、ペースメーカーや金属が体内にある方は使えません。

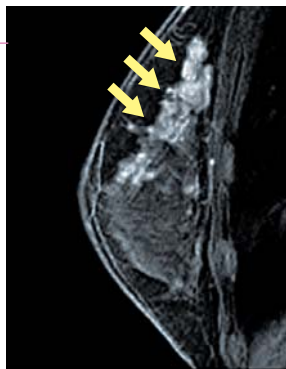
### 検査の受け方

細長い検査台の上に横になり、磁場のある円筒のドームの中へ入ります。病変をより鮮明に描き出すために造影剤を使用します。



### 検査画像例

造影剤に反応して白く見える部分（矢印）が乳がんです。右乳房の上方部分に斜めに長く病変が存在しているのがわかります。



## CT検査

検査にかかる時間 10～20分程度

CT検査は、X線を用いて人体の断層像を作成し、短時間で比較的簡単に全身を調べることができる検査です。乳がんは「全身病」とも言われ、乳房以外への転移も否定することはできません。しこりをより鮮明に撮影するために造影剤を使って、乳房にある病変はもとより、その他の部位（リンパ節、肝臓、肺など）に転移していないかを調べることができます。治療方針（手術を行うかどうかや手術方法など）の決定に役立つ検査です。

### 検査の受け方

細長い検査台の上に横になり、円筒のドームの中へ入ります。X線により得られた画像をコンピュータが解析し、身体の断層像を描きます。



### 検査画像例

左乳房外側に腫瘤が白く描き出されています。CTでは腋の下や縦隔と呼ばれる肺で囲まれる部分のリンパ節なども調べることができます。この画像では明らかなリンパ節の転移は認められていません。





バイエル薬品株式会社は、NPO法人 J.POSH (日本乳がん  
ピンクリボン運動) を通じてピンクリボン運動を支援しています。

発 行 バイエル薬品株式会社  
編集制作 株式会社 エム・シー・アンド・ピー